

## ■□ 解題

### 社会的課題や歴史的背景から 新しい運動が生まれる －私たちの活動や事業はどう向き合っているのか

若林 靖永（京都大学経営管理大学院教授・本研究所理事長）



**【若林】** このクロストークを務めさせていただきます私は、京都大学経営管理大学院の経営研究センター長で、くらしと協同の研究所の理事長もやっております、若林靖永です。よろしくお願いたします。

本日のクロストークにつきましては、研究所の企画委員会や運営委員会等の議論のなかで具体化されたものですが、まず大事な視点は、何か新しい運動が生まれるのはその時々、社会的な課題や歴史的な背景があるからこそだということ、そして、現在において価値ある取り組みについては、現在の私たちの課題に対してさまざまな活動や事業がどう向き合っているのかが重要だ、ということです。このことを今回の企画の基本的な考え方として思っています。

たとえば、みなさんもお存じのように、協同組合、あるいは生活協同組合がどのような歴史的な背景や社会的な課題のなかで生まれてきたのかと申しますと、ロッヂデールのケースしかり、また日本の生協の広がり、なかでも、食品添加物等の消費者被害があり、食の安全をめぐる強い要求等々に支えられて、そういった問題に真剣に向き合おうという組合員の意識と運動が大きな背景にありました。

このことは、無印良品、良品計画の誕生についても言えると思います。良品計画は、1980年に西友スーパーのプライベートブランド（PB）として出発しますが、その

後、路面店を出して、無印良品の商品でいっぱいになる直営店を展開するかたちのなかで、良品計画という会社になるという流れをたどります。

この場合でも、80年代当時はDCブランドなど、非常に派手なものがどんどん生まれるなかで、「こんな華美なものが本当に必要なのですか？」という、ある種のカウンターカルチャーのような議論があったように思います。そこで登場したのが“わけあって安い”という、いまだに忘れられない名コピーであり、無印良品のスタートです。つまり、そういう事情のなかで生まれたということです。

そして、現代においては、SDGs（持続可能な開発目標）の議論を私たちはもっともっと学ぶべきだろうと思います。これは2015年9月の国連総会で、2030年を目標に15年かけて達成すべき17の具体的な目標と169のターゲットを決めたものです。ぜひ169のターゲットも丁寧に見てほしいのですが、世界の先進国から新興国・途上国までさまざまな国・地域・団体・個人にとって、いま人類全体がどのような問題を解決したらよりよき社会を未来に残せるのか、という共通のテーマを明確に打ち出した目標です。

そして、これに対してICA（国際協同組合同盟）は、こういう議論を出しています。「いま世界の協同組合の組合員数は12

億人にも上ります。200年足らずで、協同組合運動ほど成長した経済的・社会的・政治的運動は世界にはないでしょう。しかし、成長が最も重要なことではありません。私たちは、環境と調和を保ち、コミュニティと連帯しつつ、地球が私たちにもたらしてくれている資源を消費し、生産し、活用しています。それが、私たちが国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の重要なパートナーとなっている理由です。」

これがICA 会長のグアルコ氏が述べている内容で、これを受けて今年の国際協同組合デー（7月7日）のテーマとして、「持続可能な社会に対して協同組合は本質的に次の3つの役割を担っている。経済主体として仕事をつくりだす。人を中心に置く社会的事業体として、社会的公正と正義に貢献する。民主的な組織としては、組合員によって管理され、社会や地域コミュニティで先導的な役割を果たす。」ということを掲げました。つまり、協同組合が21世紀の課題に対して重要な貢献をするのだと宣言しているわけです。

このように、存在するものが価値あるものであるためには、いまの状況のもとでどういう課題を意識し、どういう使命をみずから自覚して取り組むのが重要なのだろうと思います。

そういう点で、今回取り上げる良品計画は、まさに1980年代当時の日本社会の浮ついた風潮に対するアンチテーゼとして生まれて、こんにちにおいても、これからの社会や私たちの暮らしはどうあるべきかを問いかけることによって、先ほど杉本先生からタオルの話が出たように、鋭いメッセージを持った商品開発などさまざまな事業を展開されていて、本当に注目すべきものだと思っています。

無印良品といえば、お店のこともありますし、最近、業績が伸びている海外事業のこともあります。主に社会的な課題との関係で意味やメッセージのある商品を開発してきたことに注目して、私が萩原さまに質問を投げかけ、それについてスライドを使いながら説明していただいて、それについて再び質疑応答をさせていただくというクロストークを進めてまいりたいと思います。

途中の休憩時間に質問用紙を回収しますので、感想や質問はそれまでに記入しておいてください。そのなかからピックアップして、後半のディスカッションではそれを私が紹介しながら（必要に応じて指名するかもしれません）、萩原さんにお話を聴くというかたちで予定しています。

以上を解題とさせていただきます。

